

日高山脈の国立公園発足以降の十勝自然保護協会の取り組み

① 7月21日(日) 大樹町 歴舟川(カムイコタン公園)・中の川(砂防ダム)

「自然を語ろう! (24年度第1回)『歴舟川から日高山脈を考える』」

16名参加

日高山脈の国立公園化を機に、大樹町の清流「歴舟川」とその支流「中の川」を訪れ、山・川・海のお互いに及ぼす影響を一体的にとらえ、自然をありのままに残す大切さを考えた。

その中で、今、遡上しているサクラマスを観察しながら、中の川砂防ダムの堆砂のために魚道が機能せずダム下の溜まりで数百匹が滞留している状況を観察し、砂防ダムや魚道の在り方を考えた。*管理者に現況を伝え、数日後には魚道口周囲の堆砂が除かれて魚道は回復した。

また、当河川の活用の一環として、カムイコタン公園において当会役員の指導でカヌー・カヤックの試乗体験を行った。



十勝毎日新聞8月8日付

② 10月14日(月・祝) 13:00~17:00

講演会 「いま、国立公園を考える」

とちぎプラザ視聴覚室

講演 「岐路に立つ日本の国立公園」 講師：市川守弘氏(弁護士)

現地からの報告2件(発表：当会役員)

- ・「阿寒摩周国立公園 オンネトー南・阿寒富士西麓 アカエゾマツと原生苔の森の貴重さ」
- ・「日高山脈の自然の魅力と課題」